

国内マグネシウム 2012 年マグネシウム需要実績及び 2013 年マグネシウム需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

国内マグネシウム 2012 年需要実績と 2013 年需要予測

(単位：トン)

分野\年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	分野/年	2012	前年比	2013 予測	13/12 予測
ダイカスト	9,633	9,930	9,640	7,684	5,493	6,878	5,742	ダイカスト	6,379	111.1%	6,000	94.1%
鋳物	80	95	109	92	120	76	92	鋳物	55	59.8%	60	109.1%
射出成形	1,565	1,261	1,030	587	328	168	220	射出成形	400	181.8%	360	90.0%
その他合金	1,051	1,091	1,116	905	342	1,165	1,104	展伸材	584	125.4%	600	102.7%
その他合金								その他合金	800		825	100.1%
構造材小計	12,329	12,377	11,895	9,268	6,283	8,287	7,158	構造材小計	8,218	114.8%	7,845	95.5%
アルミ合金添加	18,312	18,694	20,237	20,124	17,552	20,185	19,616	アルミ合金添加	19,485	99.3%	19,500	100.1%
鉄鋼脱硫	9,922	9,041	9,048	7,859	4,075	5,814	6,124	鉄鋼脱硫	4,140	67.6%	4,200	101.4%
ノジュラー鋳鉄	1,534	2,548	2,526	2,352	2,238	2,358	2,306	ノジュラー鋳鉄	2,327	100.9%	2,350	101.0%
チタン製錬	420	525	584	724	600	400	1,193	チタン製錬	740	62.0%	400	54.1%
化学・触媒								化学・触媒	1,860	-	1,800	96.8%
添加材小計	30,188	30,808	32,395	31,059	24,465	28,757	29,239	添加材小計	28,552	97.7%	28,250	98.9%
粉末その他	3,066	2,823	2,286	1,795	1,241	897	1,340	防食・その他	606	45.2%	600	99.0%
内需小計	45,583	46,008	46,576	42,122	31,989	37,941	37,737	内需小計	37,376	99.0%	36,695	98.2%
輸出	395	1,011	859	891	567	1,956	2,583	輸出	642	24.9%	700	109.0%
総需要	45,978	47,019	47,435	43,013	32,556	39,897	40,320	総需要	38,018	94.3%	37,395	98.4%

※この数値は、マグネシウム地金、粉粒、ピレットの新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。再生材は含んでいません。

(日本マグネシウム協会調べ)

<2012 年の需要実績>

①近年のマグネシウムの使用状況を考慮し、需要分野の以下の需要項目を変更した。

- ・その他合金 → 「展伸材」と「その他合金」に区別
- ・粉末その他 → 「化学・触媒」と「防食・その他」に区別

②2012 年は、構造材部門の需要が増加したが、添加材向けとなる純マグネシウムの需要が若干の減少となり、内需合計はほぼ横ばいとなる 37,376 トン（前年比 1%減）となった。しかし、輸出が前年比約 75%の大幅な減少となったこともあり、2012 年の総需要量は 38,018 トンと前年比 5.7%の減少となった。

③マグネシウム合金を使用する構造材部門の需要は、生産拠点の海外移転が懸念されたものの、震災からの順調な回復等により、ダイカストが前年比 11.1%増の 6,379 トン、射出成形が 81.8%増の 400 トンとなり、また展伸材部門の需要が増えたことから、展伸材・その他合金が前年比 25.4%増の 1,384 トンとなった。合計では 8,218 トンと前年比 14.8%の増加となり、震災前の 2010 年の数値近くまで回復した。

④純マグネシウムを使用する添加材部門の需要は、鉄鋼脱硫向け、チタン製錬向けの減少により、添加材小計は前年比 2.3%減の 28,552 トンとなった。

⑤輸出部門は、米国、ブラジル向けの輸出货量が大幅に減少し、前年比 75.1%減の 642 トンとなった。

<2013 年の需要予測>

①構造材部門は、難燃材、リチウム材などの適用により、展伸材及びその他は微増すると予測したが、円安傾向ではあるものの、生産拠点の海外移転の流れが続くことが見込まれることから、ダイカスト、射出成形は減少すると予測し、全体では前年比 4.5%減の 7,845 トンと予測した。

②添加材部門の需要は、チタン製錬以外は横這いで推移するものと予測し、全体では前年比 1.1%減の 28,250 トンと予測した。

③全体では、ダイカスト部門での活発な海外移転もあり、前年比 1.6%の 37,395 トンと若干減少すると予測した。